

(様式1)

塩商工第242号

平成31年2月22日

高等学校教育課長 様

学番 57 県立塩沢商工高等学校長

明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業について、下記のとおり報告します。

記

県立塩沢商工高校

【テーマ】 地域と連携した教育課程編成の研究

【目標】

地域のニーズを見据えた特色ある教育活動（教育課程）により、地域企業が求める人材育成を推進し、地域に根ざした人材の育成を図る。このため、地域と連携した教育課程編成の研究に取り組む。

【取組の概要】

- ・ 生徒の土木に関する仕事への理解を深めるための効果的な導入方法の研究
- ・ 克雪・利雪の事例等による地域理解を深めるための研究
- ・ 地中熱を利用した技術を指導するための研究活動
- ・ コミュニケーション能力の向上を図る指導方法の研究
- ・ 生徒に地域の課題と解決策を考察させるための効果的な指導方法の研究
- ・ 地域と連携した教育活動充実のための研究
- ・ インターンシップ実施（2年生全員）

【取組の成果】

- ・ 機械システム科1年生全員に土木現場見学を実施し、土木企業の作業内容やその重要性について生徒は理解を深めることができ、土木に関する関心を高めることができた。
- ・ 商業科生徒は地域行事へ参加し、商品販売活動や地域貢献活動を行い、地域の魅力や観光資源等を再認識することができた。
- ・ インターンシップは2年生全員が3日間取り組んだ。就業体験を実施することで勤労観や職業観を育成するとともに、地域企業の魅力を体験し、各企業における本校への期待を感じることができた。
- ・ 克雪・利雪の事例等による講演会により生徒は地域理解を深め、地中熱を活用した融雪研究へ意欲・関心を高めることができた。

1 生徒の土木に関する仕事への理解を深めるための効果的な導入方法の研究について

平成 30 年 10 月及び平成 31 年 1 月、土木作業現場や作業に使用する建設機械を実際に見学・体感することで土木の重要性について理解を深めるとともに、土木系科目を選択するための動機付けとし、土木に関する有為な人材を地元へ輩出するための一助とすることを目的として、土木見学を行った。

【生徒の主な感想】

- ・ 橋梁の橋脚の建設作業を見て、思っていた以上の大変さを感じましたが、それ以上のやりがいがありそうだと思います。私はこの現場見学会を通して、建設業への興味がより向上しました。
- ・ 私が現場見学会を通して学んだことは、街を作るすごさです。市民の方々や街の安全のために橋、トンネル、道路などを施工することや、現場の方々の頑張りや、努力を現場見学会で知ることができました。

【成果と課題】

生徒は実際の土木作業現場を見学・体感できたことで、土木に関する仕事の重要性を理解し、関心を高めることができた。しかし、次年度の土木科目選択者数が募集の上限まで達しなかった。原因を考察し、土木科目選択者増加のため、指導方法の研究・改善が必要である。

2 地中熱を利用した技術を指導するための研究活動

機械システム科では、地中熱を利用した技術等に関する探究活動を行い、2年後には実際に地中熱を活用した融雪設備を施工する予定である。その動機付けと地中熱活用技術に関する知識を生徒に身に付けさせるため、平成 30 年 12 月、(株)興和の桑原様と花岡様から、講義をしていただいた。

【生徒の主な感想】

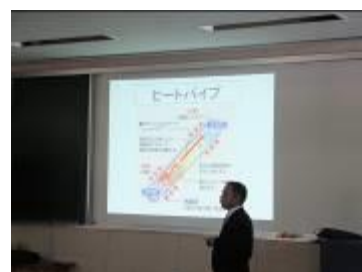
- ・ 構造物を作る以外にも建設業の仕事が多く存在していることを知りました。自分たちが毎年冬に使用している消雪パイプの仕組みや、消雪パイプを使うことによる地盤沈下の問題があることを知り驚きました。そこで、地中熱を利用した新しいシステムを使い融雪を行うことで、地盤沈下の問題の解決につながるということがわかりました。また、家の中の暖房にもこのシステムが活用でき、地球温暖化の問題にも関わっていくのだと知りました。
- ・ 日々見えないところで、安全で快適な生活作りや地球環境の問題に取り組んでくれている人たちがいることを改めて感じる事が出来ました。私も社会に貢献できるような技術者を目指したいと思いました。
- ・ ヒートポンプを使った融雪設備について、すでに採用されている場所や、効果が出ている場面の写真を見せていただき、詳しく説明を受けたので、とてもよくわかりました。南魚沼もこの設備を使え



国道 289 号線工事 (三条市)



瑞祥橋架替工事 (見附市)



ば、多少の積雪でも交通機関を妨げることなく普段通りの生活が送れるのではないかと思います。

【成果と課題】

生徒に地中熱を活用した克雪技術に関する興味・関心をもたせることができた。また、地中熱活用に関する基礎的な知識等を得ることができた。次年度は実際に作業を行い、地面の掘削とヒートパイプ施工による指導方法の研究に取り組む。

3 コミュニケーション能力の向上を図る指導方法の研究

平成30年10月、愛・南魚沼みらい塾代の小林様より、ビジネスマナーとコミュニケーションの大切さについて、実体験を踏まえた講義をしていただいた。接客の知識を知っていても、実践できなければ意味がなく、誰に対しても同じような接客・接客サービスができないといけないという話をしていただいた。また、挨拶（自己紹介）をするときの動作・表情・手順・言葉・声の大きさなど細かくアドバイスをいただきながら実技指導をしていただいた。一人一人がきちんとすることで全体の印象が決まるということも生徒は学んだ。

【生徒の感想】

- ・ コミュニケーションが大切と学んだので、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとろうと思いました。また、挨拶の意味も教えていただき、とても参考になりました。実技で、姿勢を指摘されたのでしっかりと直したいと思います。
- ・ 挨拶の意味を知り、今まで返しているだけだった挨拶も、これからは意味を考えてしようと思いました。実習では、授業で習ったつもりでいましたが、実際にやってみるととても難しく、普段から心掛けて習慣にしていけることが大事なんだと思いました。
- ・ 講師の先生の聞き取りやすい、ハキハキした話し方に心を打たれました。そして、あの笑顔で話す姿にスゴイと思いました。面接等の時に相手に良い印象を与えられるようにビジネスマナーをより深く考えてみようと思いました。
- ・ 一番驚いたことは、マナー＝思いやりということです。今まではかたくるしいと思っていたけど、マナーは人への思いやりなんだって思ったら、きちんと勉強しないといけないと思いました。次に挨拶をするときは、今まで以上に気持ちを込めながら相手を見てしてみようと思いました。

【成果と課題】

1年生でビジネスマナーとコミュニケーション能力の向上を図ることができ、今後の商品販売活動のため基礎をつくることができた。次年度への課題として、外部講師による講義に加え、教職員による指導も継続して行い、ビジネスマナーの定着とコミュニケーション能力向上のための指導方法の研究に取り組む。



4 生徒に地域の課題と解決策を考察させるための効果的な指導方法の研究

平成 31 年 1 月、南魚沼市情報誌「美女旅」・「L I F E in」を企画・運営している h design project 代表の吉田様、南魚沼市 U & I ときめき課の滝澤様から、情報発信の手法や効果的な P R 活動について講義をうけ、生徒は、南魚沼地域における情報発信の実際や地元の魅力について理解を一層深めることができた。また、「常に考え、疑問を持つ」「意見・活動を否定するなら代替案をだす」「努力の本質は試行錯誤である」「努力とは体でなく頭をつかうものである」「人間は自分が思ったことを正しいことだと認識する」「自分の好き嫌いを判断基準にしてはいけない」など、情報発信以外にも大切な話を聞くことができた。

【生徒の主な感想】

- ・ 南魚沼市に住んでいても知らないことや場所があった。Uターン、Iターンする人が増えて、もっと南魚沼が発展してほしいと思った。
- ・ 進学して地元に戻ってくる気持ちはなかったけど、ちょっと帰ってきてもいいなと思った。
- ・ 南魚沼市に住み続けたいと思った。自分でも県外の人達に魅力を伝えられるようになりたいと思う。

【成果と課題】

生徒は、課題解決のための手法を学ぶとともに、南魚沼地域における情報発信の実際や地元の魅力について理解を一層深めることができた。次年度への課題として、講義で学んだ課題解決方法を実際に活用する場面を設定し、対話的で深い学びを生徒に取り組みせることで、より効果的な指導になると考える。

5 地域と連携した教育活動充実のための研究

平成 30 年 10 月、「南魚沼グルメライド」と「つむぎ通り軽トラ市」が開催され、本校生徒もイベント補助として参加し、運営に貢献した。また、平成 31 年 2 月、南魚沼雪まつり会場で「販売実習（商品開発）」、塩沢雪譜まつりでは「塩沢紬着物ショー」に出演した。地域と連携した販売活動では、これまで学んできたマーケティングやビジネスマナーなどを活用し、自ら取り組むことで知識の定着と学ぶ意欲の向上を図ることができた。また、地域行事に参加することで、生徒は地域の魅力をさらに深めるとともに、地域の方々との交流を通して、地域と学校の信頼関係をさらに深めることができた。

【生徒の主な感想】

- ・ 接客方法と商品陳列について深く考えました。お客様の年齢に合わせて会話を变えるなど、対応力が付いたと思います。
- ・ 色々な年代の方が購入してくださり、すごくうれしかったです。私はお客様の呼び込みや商品説明を頑張りました。地域の方々に塩沢商工のことを知っていただき、うれしかったです。



南魚沼雪まつり（六日町）

- 商品販売以外でも地域のみなさんと取り組めることがたくさんあるんだということを知りました。生まれてはじめて塩沢紬を着てみて、私たちの地元にはこんなにすてきな織物があることを誇りに思います。これからも地域を大切にしていきたいと思います。
- 着物ショーに出ることは少し恥ずかしかったのですが、地域の方が喜んでくださったり、塩沢商工高校のことを応援する声援が聞けたことがうれしかったです。

【成果と課題】

今年度は様々な団体から地域行事等への参加協力依頼があった。生徒は、ビジネスマナーなど、これまで学んできたことを実際の販売活動に活用して取り組んだ。また、地域の方々との交流を通じて地域の魅力を再認識した。次年度への課題として、参加することが主となってしまい、参加する地域行事が集中した月があった。生徒への負担を考慮した参加計画を立てることが必要であった。



しおざわ雪譜まつり（塩沢）

6 地元企業と連携したインターンシップの取組について

「新しい時代に求められる学力育成推進事業」と連携し、平成 30 年 10 月 10 日（水）～12 日（金）の 3 日間、地元企業へのインターンシップを行った。インターンシップに参加した生徒は 2 年生全員の 104 名、56 社で実施した。



【生徒の主な感想】

- お忙しい中、仕事を教えていただき社員の皆さんが明るく、元気な方ばかりだったので、楽しく説明を聞き、作業をすることができました。今回のインターンシップで学ばせていただいたことを、社会人になった時に活かしていきたいと思います。
- インターンシップは、学校では学べないことを多く学べたので、貴重な 3 日間となりました。
- あいさつや言葉づかいもそうですが、「人のことを思いやりながら仕事をするのが大切」ということ、そして、「仕事の効率を考えること」を学びました。仕事はやることが多く、新しいお客様が次々にいらっしゃるのでもたもたできないからこそ、「どうすれば効率の良い仕事ができるかを自ら考える。」という事を学べたと思います。また、機会があればインターンシップに行きたいと思えます。



【成果と課題】

インターンシップに行く前に不安を持っていた生徒も、インターンシップを体験した後は、充実感を味わったり、進路を考えていく上でとても参考になったという感想をもつ生徒が多かった。このことから、勤労観や職業観を育成するためにインターンシップは有意義な取り組みであることがわかる。次年度への課題として、事前指導のための時間確保と教職員の負担軽減があげられる。また、生徒の希望する実習先を、交通手段を配慮して設定する必要があった。



7 総合所見

今回の研究活動を通して、商業科は生徒のビジネスマナーやコミュニケーションの重要性を理解させるために、外部講師と連携して指導することで生徒の学びをより深めることができた。また、地域と連携した取組により、開かれた学校・地域から期待される学校になったと考える。次年度は、商品販売活動等を通してコミュニケーション能力を向上させる研究に加え、インバウンドに対応できる人材の育成を実現するため、英会話によるコミュニケーション能力の育成を目標に、地域の大学と連携しながら指導方法の研究に取り組みたい。

機械システム科は、次年度2年生での土木科目選択者が15名であった。本物志向による指導をコンセプトに地域と連携して取り組み、地域が求める人材育成をさらに推進していきたい。また、新しい試みとして、地中熱を活用した克雪技術の指導方法の研究を実施した。今年度の成果として、生徒の地中熱による克雪技術の知識の基礎を築くともに、関心・意欲を高めることができた。次年度は実際に生徒に施工させるため、安全への配慮と実習環境の整備をする必要がある。

本校には、南魚沼地域を支える人材の育成が地域から期待されていることから、今後も地域連携した教育活動を行っていく必要がある。これまでの取り組みの成果もあり、実施した全ての取り組みにおいて、地域の企業・団体と連携して実施することができた。

【地域の声を聞く会アンケートより】

- ・ 生徒さん達が地域の行事に参加してくれることが、とても良いことだと思います。参加することで、塩沢商工高校の評判が上がると思います。
- ・ 地域企業は、将来を担う人材不足が深刻な状況です。進学等で地域を離れ外からこの地域を見る機会を得ることは良い事と思いますが、この地域で生活をしていくことのメリットをご指導いただき、1人でも多く帰って来ていただきたい。
- ・ 少子化ということで、どんどん学級数も減っていくが、だからこそこにしかない特色やきめ細やかな活動で、生徒1人1人に目の届く学校を目指して欲しい。できない事ではなく、できる事に目を向けて前向きに、丁寧に取り組むことが自然に「この高校に行きたい」という評価につながると思う。
 - ・ 地域に必要とされる学校であると思っております。地域に残り、活躍される方が増えるとありがたいです。

【平成30年度自己評価】

① 事業を通して地元企業に対する理解が深まったか。【生徒アンケート】

「思う」と答えた生徒が72.4%であり、数値目標の70%以上を達成することができた。生徒が地元について理解を深める活動として、この取組は効果があると考えられる。約1/4の生徒が「わからない」と回答しているが、指導の目的が生徒へ明確に伝わっていない可能性があるため、次年度は指導方法の改善が必要である。

② 就業体験を通して勤労観が醸成されたか。【生徒アンケート】

「思う」と答えた生徒が77.3%であり、数値目標の70%以上を達成することができた。インターンシップに参加した生徒の感想も多く多くの生徒が肯定的な感想であった。また、インターンシップ後、生徒の学習意欲も向上した。反省点として、事前指導のための時間確保と教職員の負担軽減があげられる。